

雁金山

小文間の西端、相野谷川を越えた所は以前小高い丘で、雁金山（城根）と称している。ここは、一色宮内政良敗北の古戦場でもある。地形的には陸前浜街道を眼下にみて、取手、府川を結ぶ要衝の地でもある。太平洋戦争後にこの丘は削られ平地化したが、戦国時代には小文間城の出城もあったようである。長兵衛新田一帯が城根と言われるのも出城を想わせる名23川（現利根町）に豊島氏、取手大鹿城には大鹿氏、高井城には高井氏、安孫子には荒木氏、河村氏等、何れも2,300人の兵を動かして小競り合いを繰り返していた。

その中でも取手と高井は平氏であり、かつ親戚でもあって、我孫子の諸豪族とは同盟を結んでいた。独り一色氏は京都から下ってきたいわゆる貴種であり、近郷の城主から孤立し特に隣接する大鹿氏とは仲が悪く、殊に一色氏は豪勇の将で、部下には平本備前、岡田佐渡、矢作若狭等の猛将がいて、兵力もやや多く、野心満々として攻略の機を窺っていた。

時に永禄4年（1561年）8月13日の夜半、突如として小文間城から300の兵力をもって大鹿城を襲い、忽ちこれを攻略し、城主大鹿太左衛門に重傷を負わせた。この事を伝騎をもって親戚の高井城に知らせ、高井から200余騎をもって応援が駆け付けこれと乱戦に及んだが、一方、留守の小文間城から急使が悲報をもって駆けつけていた。つまり我孫子方面の同盟軍が数百騎で小文間城に攻め寄せ、落城間もなしと言うものであった。

そこで、一色氏は前面の敵を捨て急ぎ小文間に引き返した。ところが同盟軍はこれを予測して、雁金山に進出しその南側一帯に伏せて待ち受けていた。後ろから高井・大鹿の残兵が追い、前から我孫子の同盟軍に挟撃されて遂に敗れ去り、一色をはじめ残兵は四散した。

雁金山は浅間神社を祀り、丘の南麓に名物の大松（二本松）がありましたが、惜しくも松食い虫の為枯れてしまった。（小文間物語より）

旅行会の案内

仙台七夕・松島を巡る旅

恒例の旅行会を、以下の要領で行います。暑い季節ですが、芭蕉ゆかりの地を訪れたいと思います。楽しいひと時を一緒にすごしましょう。申し込みは担当の佐藤さんと鈴木さんにご連絡ください。

締切：9月20日（火）

旅先：仙台・松島

月日：10月7日（金）～8日（土）

会費：3万円

投稿コーナー



我が家の庭に咲いたシャクナゲです。写真展に出品のため、撮影した一枚です。